

第19回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

若干早いですけれども、始めさせていただきたいと思います。これまで議論を続けてきましたけれども、今回もお忙しい中を皆さん出席いただき、ありがとうございます。19回という回数になってしまいましたけれども、サッカースタジアム検討協議会を開催いたします。

19回ということをお申しましたけれども、これまで昨年より私たちは月1回という頻度でこの協議会を進めてきたわけですが、そういった中で広島にふさわしいサッカースタジアムのあり方について、いろいろ議論を重ねてまいりました。そういったことを踏まえて、もともと問われている行政、経済界のほうに、私たちの考えを提案する時期になったと思います。

当初は、先月までということを考えていたんですけれども、何ぶんなかなか固まらず、翌月の11月まで入ってしまいましたけれども、一応、今回を最後の協議会として、最終とりまとめをしていきたいと考えております。

短い時間の中で、いろいろ資料が出てきて、それを皆さんの方で見ていただきます。最後のほう、最終取りまとめについても、事前の話になってしまいましたけれども、今日はぜひ皆さんのお考えをお聞きしたいと思っております。すなわち、私たちに与えられたことが、“広島に相応しいスタジアム”とは何かということについて、いろいろ今まで、各場所においてどういうことが起きるのかとか、そこが有している長所・短所も含めて、いろんな資料を見てきたところです。それを踏まえて、皆さんに広島に相応しいスタジアムについてのご意見をいただこうと思っております。

先に、第18回サッカースタジアム検討協議会の決定事項を確認したいと思しますので、これを資料としてあげますが、事務局からお願いします。

事務局

はい、それでは着席したまま失礼いたします。先般、10月19日、市役所で行われました「第18回サッカースタジアム検討協議会の議事結果について」資料1をご覧ください。項目のみ、読みあげさせていただきます。

- 1、コンセプトで、「イベント終了時」のスタジアム周辺の混乱は終了時だけではないため、「イベント時」に改めるべきということで、修正しております。
- 2、規模・設備について、3万人規模が適正としているが、候補地によっては、規模を変えてもよい等の意見があった。
- 3、候補地の絞り込みの考え方について、AHP（階層分析法）はあくまで参考資料なので、「(AHP手法による)評価項目の重みづけを行いながら」を「評価項目を元にAHP手法による重みづけを参考にして」に修正すべき、という指摘で、加筆修正しております。
- 4、コンセプトの実現可能性による評価について、旧広島市民球場跡地及び中央公園自由広場・芝生広場等の部分の「多機能複合型の“スタジアム・ビジネス”を展開していくことは難しい。多機能複合型の“スタジアム・ビジネス”を展開する際には、都市公園法の制約を受けることに留意すべきである」に表現を修正すべき、ということで加筆修正しております。

次に、(広島みなと公園について) 代替地の確保や補助金の返還についての表現を入れるべき、ということで加筆修正しております。

5-3、コスト性で、多額の税金を投入して整備するため、地元クラブとして、どの程度の負担が可能かとの意見に対して、小谷野委員より、サンフレッチェ広島は、現在の使用料約8千万円プラス1億円、年間1・8億円程度は負担できる。広島みなと公園については、シャトルバスと警備費に0.4億円かかる

ため、1.4億円の負担となる旨の説明があった。さらに旧広島市民球場跡地及び中央公園自由広場・芝生広場等の場合の国有地の使用料0.8億円も支払いも可能との説明があった。

5、評価項目による各候補地の評価以降の文案については、時間の都合で議論できなかったため、各委員が持ち帰り、後日意見があれば、事務局に送ってもらうこととしたということで、事務局に送っていただいたものをまとめております。

AHPの評価結果について、有効数字4桁まで出す必要はないのではないかということで、次回資料では小数点第1位までに修正しております。なお、AHPの資料が独り歩きしないよう、マスコミを含め厳重な注意をお願いしたところです。以上です。

三浦会長

ありがとうございます。前回の協議会でいただいた意見も、その後、統一する議論ができなかった今度の評価項目による各項目の評価ということもあります。それらの見解に対して、その後に各委員から協議いただきました。それを見ていきますと、パソコンで修正をした部分もありますし、複数の意見があって、相反するようなところもありましたので、そのへんは上手くそこを鑑みてのものに修正しております。個別の委員においては、どうしてもまだお考えと違うものになっていたりするかと思いますが、そのあたりは、他にも別の方の意見もあったということで、その中で、今日一応これらのものをベースとして協議いただければ、と思っております。

それは、最終的には参考資料として整理し、それらを基に今日の資料の方に、広島に相応しいサッカースタジアムづくりのための最終とりまとめというところに組み入れて表現しているところであります。このあたりも先ほどの、前回以降に出していただいた意見、過去の議論を振り返りつつですね、この協議会の総意としてまとめられるようにということで書いておりますし、プラス、どうしても二つの意見があるようなところに関しては、それを併記するような仕方をしております。基本的には、ご指摘があって、ちょっと事実と反するようなところとか、ちょっと読み違いみたいところは当然修正していますし、より前向きな書きぶりですね、そういうところもそのようになるように修正しております。

それから、他に、項目において、複数の意見があった時にはなかなか苦慮したわけですが、それでもできる限り反映できるようにということでとりまとめましたつもりです。それが、お手元にあるものです。簡単に、どういう部分であるかについて説明させていただきたいと思っております。

目次のところですね、見ていただきまして、基本的には、1、2、3の部分に関しては、追加とりまとめとしたものを踏まえております。ただ、例えば開催の回数であるとか、そういったところについては修正を加えております。プラス、あとで申しますけれども、8ページあたりですね。ここでは、今年度に入りまして、候補地をさらに絞りこんだ部分についての経緯の記載をしております。

ウの部分では、広島西飛行場跡地についてはということで、軌道系交通機関がないということ、さらに3万人がご来場した場合に、特に会場から帰っていただく時に非常に時間がかかるということから、候補地としては難しいだろうということで、そこを落としたところです。

それから、エ。ここについては広島広域公園についてということで、こちらについては検討を行いました。スタジアムの改修というところで新設と同程度の費用がかかる、アクセスについても改善はされますけれども、それでも3万人規模の観客を短時間で処理することは困難ということと、あと、今回私たちがスタジアムのことを考える時に、臨場感のあふれる、いいスタジアムを造りたいということがありますが、そういった点で、広域公園ですと、どうしても、トラック、陸上競技場としての機能がありますからトラックが残ってしまうという部分がありますので、そのあたりを鑑みると、やはり残りの、今回議論しています3カ所に比べると、ふさわしいとは言えないということで、そこも今回候補から外したところです。そういったところで、最終的には3カ所でいこうということを書いています。

9ページからがコンセプト等の取りまとめをしたところとして、最初のところでは3候補地についてどこが対象となっているかということを図として示しています。この赤で囲ったところがそれぞれの場所での、今スタジアムの用地として使える部分であります。その後は、以前議論したことから、こういうことはコンセプトとして必要だということ、共通のコンセプト、候補地ごとのコンセプトを、それらは議論の中で出てきてですね、というのは、5番のコンセプトの展開イメージの中での機能とか付帯すべき施設などについての表記は修正を行っております。何ができるか、というところですね。

その下のところは、方向性としてずっと整理をしているんですけども、今回はこれらのコンセプトを取りまとめたんですけども、今後具体的にスタジアムの整備を進めていく時には、国際平和文化都市広島にふさわしいスタジアム、広島県内の中高校生サッカー大会等の決勝戦の開催などを含めて、広島の将来を見据えて子どもたちが未来に希望が持てるスタジアム、世界に誇れるようなオンリーワンのスタジアムというものにしていく必要があるだろうということ。そういったことをどう生み出していくのか。そして、それが市民の賛同を得られることが必要だということで、そのことにも触れております。

あとは、規模・設備。12ページのところで、先程も前回の協議会の中でも規模のことで議論がありました。それについても複数の委員の方から意見をいただいています。それらを踏まえて整理をしたところです。最初に書いていますが、国内外のスタジアムトレンド、候補地共通のコンセプトを実現するためには、目指すべきサッカースタジアムが市民と共に創られ、世界に誇れる国際平和文化都市「広島」を具現化するスタジアムであることが求められるだろう。

これを踏まえると、広島という国際都市にふさわしいスタジアムには、世界の人々と広島の人がサッカーというスポーツを通じて幅広い交流を生み出せる国際試合の招致が必須となるだろう。広島に生まれ育ったサッカーチームのホームスタジアムとしても、市民が世界に誇れるスタジアムとなるべきだろうということも、視点としてまとめております。

その上で、規模としては、広島にふさわしいサッカースタジアムにしようということで、コンセプトにおいて示した通り、クラス1の国際大会の誘致が可能となることも求められるだろう。また、当然広島に生まれたサッカーチームのホームスタジアムとして、世界に誇れるスタジアムとなることも必要だろうと。

そういった中で、まず国際大会の誘致ということで、それを優位に進めるにはという視点をもっていきますと、3万人規模を超える専用スタジアムが国内に4カ所と少ないこと、西日本において3万人規模を超えるスタジアムが3万人少々のノエビアスタジアム神戸だけであって、さらに2015年秋に完成予定であるガンバ大阪の新スタジアムは4万人収容であることを踏まえると、やはりこれらと伍していく必要があるということを見ると、3万人規模は適正と判断をしたところです。

プラス、このスタジアムをホームスタジアムとして使用する地元プロサッカークラブの集客需要予測を見ていきますと、最大のところが3万人を超えておりますし、現在のエディオンスタジアム（広島広域公園陸上競技場）においても観客数が3万人を超える場合があること。そして今回の場合は、今のスタジアムよりいい場所に、より魅力的な設備のスタジアムを造るということ。それから、それを核とした周辺の街づくりが進むだろうということを考えていくと、当然新たなサポーター層の拡大（需要喚起）が大いに期待できる。実際に、マツダスタジアム、これができるJR広島駅の東側の旧の貨物ヤード跡地、ここにおいても特に人々が集まるような場所でもなかったのですが、マツダスタジアムができたことによって、たくさん人が訪れ、それも、以前の旧広島市民球場よりも多くの観客が来て、というようなことをいろいろ考えますと、やはり今以上にたくさんの、プロサッカーチームが使っても、たくさん人が集まってくるだろうということを考えました。

こういうところを考えた時、場合によっては、将来的な拡張もできていくような、そして3万人収容以上という規模がいいだろうということにしております。ただ、異論もあったのも確かですので、サッ

カースタジアム検討協議会における議論の中では、旧広島市民球場跡地では、実際にこの3万人は、景観に関しての高さの制限とか、敷地の制限ということがありまして、地盤の掘り込みなどの高額なコストが発生することになります。これを回避するためには、3万人にこだわらず、規模を縮小することも考えていけるということもありましたので、そのことに触れています。

このあたり、基本としては、3万人にすることを国際大会の誘致という点で、これは広島にふさわしいという言葉に対しての一つの回答だと思っています。プラス、主として使っていただく地元プロサッカークラブということを考えても、これまで以上の観客を招くことができるだろう。そうなってくると、器としてはある大きさが必要であろうということにして、まとめております。ちょうどご意見があると思いますので、それはこれも含めていただければと思います。

その後は、14 ページのところでは、候補地の絞り込みの考え方について、ここまでやってきたことをこういった手段でやりましたということで、まとめております。

15 ページでは、コンセプト、もともと持っているコンセプトがどれだけ実現可能かということで、個別にそれぞれのところで何ができるかということをお話しています。一例として、中央公園自由広場・芝生広場等について説明させていただきますと、都心部の立地特性を活かして、街の集客装置としての「街なかスタジアム」を生み出せるなど、国内外のスタジアムトレンドは概ね実現可能であるが、多機能複合型については、スタジアムビジネスを展開するうえでは、都市公園法上の制約を受けること、これは土地の評価であることを書いています。

また、新たな広島のシンボルとして、広域的な集客を図る面、広島県全体の活性化につなげること、広島の魅力の向上、賑わい創出に資すること、サッカーを通じた地域交流・国際交流を促進するなど、スタジアム整備の意義をすべて発揮できるというふうに言っております。

そして、クラス1の大会が誘致可能な規模である3万人規模のスタジアムが可能で、イベント時のスタジアム周辺に混乱がなく、円滑な交通アクセスが可能であるなど、コンセプトで示しているスタジアムの機能をすべて満たせると考えられる。ただ、「スタジアム標準」が求める南北方向へのスタジオの配置というのは可能ではあるんですけども、敷地の南北方向が狭いということがありますので、その分、南北方向への観客席の拡張性は制限を受けるとまとめています。

これは、旧広島市民球場跡地においても、基本的にはスタジアムに必要なコンセプトはそれぞれできるんだと。ただ、ある部分でできないところもあるということに触れておりますし、その各場所においての制限のところでも考慮すべきことがあってというのも述べております。これは広島みなと公園についても同じです。

そして、広島みなと公園においての国庫補助金の返還とか、緑地・防災機能の代替地についても最後のところで書いているわけです。

17 ページは、各候補地のコンセプトということで、これは基本的にそれぞれの場所発揮できるということです。

18 ページ以降は各評価項目に各候補地の評価ということで、前回、ここまで議論に至らなかったんですけども、その後に意見をいただきまして、そのあたり、その意見を基に書きぶりについては修正を適宜行っております。アクセス性、付加する機能ということですと書いております。それからコストのところ、前回のこういう対応、意思決定のまとめにもありましたが、主として主に使っていただく、プロサッカーチームとしてそこに対して新しいサッカースタジアムを入れた時に、どれだけのご負担をいただけるかという部分を回答いただきましたので、その部分を加えてライフサイクルコストというのを出しています。

ただ、23 ページの広島みなと公園の場合、これについて他の場所での国有地の使用に伴ってのかかる費用を捻出されているそれぞれ0・8億円程度の負担になるだろうという状況です。これについて、2

カ所、中央公園自由広場・芝生広場等と旧広島市民球場跡地については、それについても負担をしていくということでした。その部分の費用について0.8億円という区分が、使用に関連する費用として払えるということであれば、それに相当する額を広島みなと公園でもご負担願えるではないかということを入れております。ただ、これは当然、クラブのほうの考え方がありますので、イコールとはならないかもしれませんが、もしできればということでの結果をここには示しているということです。それらを踏まえてコスト性の評価ということをやっていますが、ここに関しては一方的に、前回のいただいた情報から期待をして書いているところです。

小谷野委員

これは今回の議事結果についてというところで、中央公園自由広場・芝生広場等と旧広島市民球場跡地の場合の国有地の使用料0.8億円の支払いが残るという説明があった。実はこれ、前回の協議会が終わった後に追加情報の提供を事務局に求められまして、我々が計算したわけですが、これは公開では行われていなかったもので、勉強会の時にあった話ですが、大体サッカースタジアム、芝の管理を考えると、年間80日までが一番妥当な使用範囲ということで、80日フルに使った場合、8000万円を支払えるということ。もちろん、高校サッカーの地区予選も最後の方ですとか、アンジュヴィオレ広島も使うかもしれませんが、とりあえず、そうした人たちが使わなくても我々が80日分使ったとした場合どうなるんだろうかという試算をうちの中でしたわけですね。

今我々はエディオンスタジアムに8000万円支払いをしております。仮に旧広島市民球場跡地を使えるとした場合には、さらに、年間1億円払えるようには経営努力をしていくと。これは我々スタジアム建設協議会のほかに、スタジアム建設のほかの、いろんなところでお話ししている話です。

そこで、仮にスタジアムを使用した場合に、例えば前日の練習とかを含めて、マックスで80日使った場合に、カーブが払ったのと同じ8000万円を支払うとしたらどうなるんだろうかというシミュレーションをした場合に、我々が協議会で使っているコンサルタントの方が出してきたのは、入場者数1万7,000人予測の、20倍すると34、8万人、それで街の中心でできますので、大体これが街で配っている試合告知のビラとかポスターとか、ティッシュ配り、その他のコストが、街の中心部だけで年間の広告宣伝の使用料の1億円のうちの大体1500万円から2000万円ぐらいなので、大体1500万円は削減できるだろうと考えてみますと、黒字になりますね。1200万円の黒字になります。

我々が独自に雇っているコンサルタントの予想ですと、年間36万円なので、これだけ使用料8000万円払っても2500万円の黒字になるということで、8000万円までは旧広島市民球場跡地で払えるということでございます。

一方で旧広島市民球場跡地以外の場所ですね、これは広島みなと公園も含めての場合ですが、今コンサルタントが出してきております数字を20倍するとですね31、1万人ですが、それでは収支とんとんで、356万円ということですので。これは、実はスタジアム建設協議会等でもお話ししていますが、シャトルバスの運行料を除いた部分はどこかで上乗せしますよといった話になりますと、今の8000万円の使用料に比べて6000万円多くなると。1億4000万円をスタジアムに払っていきますよという前提のもとで、31.1万人で、1.4億円を払うと収支がほぼ同等の360万円ということですので。スタジアム建設協議会の前に出した資料というのは、今コンサルタントが出されている数字のもとでは、かなり収支トントンの数字が広島みなと公園の場合には出ているということです。

ですので、クラブライセンス制度の黒字基準等を考えてみますと、ここでさらに追加のお金を払ってしまうと、広島みなと公園を使用した場合には赤字がずっと続いてしまうということで、お支払いしたいんですけども、ちょっと厳しいなということが現状でございますので。このところが、やはり旧広島市民球場跡地が年間0.8億払っている部分の上乗せは、収支シミュレーションからすると、ちょっ

と厳しいのかなというふうに考えております。もちろん、将来的にはいろんな施策を講じることによって、黒字が大きくなってきた場合にはいろいろまた考え方があろうかと思えます。しかし、現時点では、ここの追加はちょっとしんどいかなと考えております。

三浦会長

ありがとうございます。そういった情報をこちらが推測をして、こういう希望を持ってやったということですが、現実では難しいところがある。

川平委員

すみません、意見として申し上げさせていただきたい。ここでこういった中央公園自由広場・芝生広場等と旧広島市民球場跡地について、国庫負担を賄えるという能力があれば、広島みなと公園についてもある程度のお願いはできるんじゃないかと。考え方を当然どこに造るにしろ新しい球場を造ると入場者数は増える。すると現状のエディオンスタジアムの飲食数ということではないわけですから、これについても収入も上がっているだろうと。スタジアムを整備する上においては、資金調達のこともまだまだ議論していないですけど、いずれにしても、市民県民の税金を補てんされないということを見ると、何とか自助努力の中で市民県民の税金をいくらかでも軽減できないかという思い、そういったものを表されたものがこういった結果だろうと思えます。当然サンフレッチェ広島の企業経営の考え方は理解できますし、その段階として全くできる・できないの判断は、なかなか難しいかなと。そして、最後に出た計算をしたらどうかというふうに思います。これは私の意見です。

小谷野委員

これは非常に、これまで議論が揉めると思っていたので言わなかったんですけども、その前提のところなんですけれども、我々今広島みなと公園に造った場合ですね、コンサルタントは 20 試合で 31・1 万人と、今年大体 30 万人なんで、1 万人増えるということなんですけれども。我々、内々ですと今ほぼ横ばいというふうに見てまして、広島みなと公園を 30 万人という予想で考えています。ですので、飲食の場合はですね、売れても手数料、例えば 16%とかでやっていますので、年間の飲食の収入というのは 2000 万円とか、そのくらいなんです。ここは仮に倍に増えても、入場料収入がおそらく広島みなと公園の場合、真ん中に建てる時よりは値上げをあまりできないことを考えると、かなり経営努力をマックス、マックスでやっても、本音としては 8000 万円までいくのは相当大変だというふうに考えております。

一方で、8000 万円というのは、あくまでも旧広島市民球場跡地に、コンサルタントが、何もやらずに、うちが 80 日独占した場合で 8000 万円と言っているのです、8000 万円というのも、ある種マックスの数字ですので。ですから、ここの 8000 万円という数字が、ここの表の中で一人歩きするというのが、非常に将来の我々の経営に禍根を残さないかという心配もしております。

山根副会長

今の議論で、要はどこへ造るにしろ、今から造るということにおいて、入場者数、あるいは入場料等をよくしていく、言い換えると今おっしゃったような、ここの旧広島市民球場跡地で思われていることがどこでも実現できるというような、新球場ができる場所というように認識しとるんですが。そういう意味で観客動員数にしろ、あるいは単価にしろ、そのようなものできない限りは、一方で新しい球場のことにはならない。新しい球場は、そういうものが実現することであろう、というふうに思っています。

小谷野委員

理念としては全くその通りなんですけど、ビジネスとして考えると、現実にはそれで造りましたと、クラブは赤字だらけで、スタジアムも儲からないと言ったら、非常にそれは問題になるので、その場合のスタジアムの建てる、建設の段階で収益性とか、そうした部分は慎重に見込んで考えるべきじゃないでしょうか。これは広島みなと公園の付帯設備のところでもそうなんですけどね、期待を持ってこれをいこうというのはいいんですけども、本当にビジネスをやった場合にはリスクもすごくありますので、やはりリスク要因を考えた上でスタジアム建設、これも重要な社会インフラのひとつですので、慎重な議論をするのがよろしいかと思えます。現実には、大きいスタジアムを造り過ぎて非常に経営が大変だという横浜マリノスのような例もありますし、現実問題としまして、我々が仮に広島みなと公園を考えるとしたら、本当に3万人いるのかという根本的な問題も出てくると思うんですね。3万人の規模の問題は後で議論になると思えますけれども、我々クラブの立場としては、やはり運営コストをできるだけ抑えたいということもありますし、マキシマム・ロードではなくてアベレージ・ロードでスタジアムを設計すべきという、政策投資銀行の人たちの考え方がJリーグのスタンダードでもありますので、その辺はスタジアムの大きさも含めて、慎重な議論が必要なのではないかというふうに考えております。

川平委員

私が申し上げたいのは、今から作ろうとするこの数字というのは、まだまだもうすこし正式に計算しないと分からないというのはおっしゃる通りで、リスクも当然企業経営者とすれば当然考えていなければ。ただ、私が思うのは、そういったものを今回つくろうとするときのサンフレッチェの姿勢をぜひ示してほしい。それが県民市民に対して訴えることになるんじゃないか、そういったことを申し上げたかった。

小谷野委員

でしたらですね、この22ページ目、23ページ目の表のところ、地元プロサッカークラブ負担額のところを、それぞれの場所について、サンフレッチェ広島の財務状況によっては支払いを増やすように努力するとか、そういう表現を3カ所について加えていただいて。この23ページの表の中で0.8億円を機械的にたすという表記を改めていただければと思います。我々その辺は非常にブレの大きいビジネスですので、後でまた議論になると思うんですが、単年度で利益を出したらすぐ回収しようという言い方をされると困るんですけども、高収益が続いた場合にはその都度また考えていくというようなところは我々としても今後見ていきたいなというふうに思います。

加藤（厚）委員

一点だけ確認させていただきたいんですけど、この中央公園自由広場・芝生広場等と旧広島市民球場跡地の場合は0.8億円の国有地に対する借り上げ費用は必ず払わなくてはいけないもの。そうすると、8,000万円は一応余力はあるわけですね。それを回すということは難しい？

小谷野委員

それは、現実収益が上がっておりませんで、今の我々の広島みなと公園のシミュレーションですと、なかなかそれを何割か増すとと言われても、無い袖は振れないというのが現状ですので、0.8億円の費用を広島みなと公園に回すという議論は今の段階ではコミットしかねるというのが現状です。ただ、忘れていただきたいのは、今エディオンスタジアムに払っている8000万円から6000万円くらいは必ず大目に払うように頑張っていくということは、常にスタジアム建設運動で話している文脈の中での議論で

ありますので、何卒ご容赦願います。

三浦会長

今回、この部分に関しては、数的にそのまま当てはめたものを出したわけですが、それは希望的な数値であるということで、今回答があったことを議論の中に出るのは、ここが言うなれば、ゼロになることでもないのだから、今この段階で明確にどのくらいというのは、やはりクラブの経営のこともあるので明言できないと。ただし、当然収益が上がればそのときに応じては上付けできるようにというふうを受け止めて。そこを踏まえてこのLCCのところを見ていただければと思います。

加藤（義）委員

今この会議の中へ入っていて、建設費にしても整備費にしても極めて大雑把なものなんですね。実際の設計もしてないし、こんなものは推定で出しているだけなんです。そのようなこと、また、サンフレッチェ広島が、今の入場者数というものも1万5000人～1万7000人ですかね、広島みなと公園が。そこらがよく、どんなものができるのか、どんな仕組みになるか分からないと、本当は入場者数も計算できないから、サンフレッチェ広島の収支も難しいところじゃないかなあと思う。そういう意味では、ここはあっても参考値で、先ほどちょっとおっしゃっていましたが、出来具合によったらまたこれができるということで、あまり気にしない方がいいんじゃないかというのがあると思います。

三浦会長

では、残りはザッとあって、個別の意見を頂きたいと思います。コスト性のところに関しては、その点にはここは、旧広島市民球場跡地では3万人のスタジアムを造る時には特殊な工事、掘り下げ等が必要になってくる。これは高さ制限ということに対して、それをクリアするためにということです。ここで費用がかかる、プラス、地下埋設物の移設などによるコスト高もあるなということ、こうした問題を回避しよう。このあたりは元々が野球場としての敷地があって、そのあとにいろいろな施設が、地下埋設などが入ったりします。形状の違いがかなりあるということだと思います。球場は基本的には丸い形で、サッカースタジアムは長方形。そうなってくると当然その形状の違いで、今丸い形に合わせて地下埋設施設がありますので、それらの移設がかかってくる。それがある程度かかるだろうということです。そういったことを回避しようとする、小さく造らないといけないかなということを書いておきます。このあたりは、先ほどあったコストの部分で、実際に旧広島市民球場跡地が、一番コストがかかる状況ですけれども、これは議論して3万人ということ、もしそれぐらいかかるのを避けるのであればということをご意見いただいたところで、そういうところを表現しているところです。

最後のところの数字については、今ご意見があったので変更が生まれることになると思います。どうしてもそれらをやっても、前の22、23ページを見ているとグレーで表現を変えているところです。それだけここは不足してきますので、これらをどうするかという部分で、マツダスタジアムの資金調達スキームと同様に、地元のプロサッカークラブとか県のサッカー協会といった地元サッカー界をはじめ、市や県といった行政、経済界等が一体となって、国費をできるだけ使えるような策を考えて助成金を導入したり、市民、県民、企業等からも協力を得るような多様な資金調達ということを検討しないと、なかなかこの不足額は解消できないなということをもとめてあります。

それから、資金調達に関してですけれども、豪雨災害の復興支援ということが今、このところではあります。そういった中でスタジアム整備に税金を投入するという点については、やはり考えないといけないことであるということに触れております。そういった中でも、そういったことに関して税金を投入してもらうためには、しっかり理解を得ていく必要があるということです。

今、意見もあったように、利益の部分、サッカークラブに利益があった場合にはできるだけ不足額の解消に充当してほしいなどということを書いているところです。

あと、その下には、こんなものがいろんなところでやられているところですが、国内外のいろんなサッカー大会を地元でできるように誘致することとか、あとは、協議会が立ち上がった当初はできるだけ試合がない日にも貸すなど何か使うということ、これが必要だということを書いてあります。まだそれらの具体的なところまでは議論が進んでないんですけども、収益向上ということで、コンサートなどの有料興行などもできるだけすべきだと。ネーミングライツもそうですし、寄付も考えないといけないところですね。あとは、できる限りは相乗効果が期待できるような複合開発をやっていくべきだというふうにして、資金調達における不足額を何とか解消していく方向で努めていこうということを書いています。

26 ページ以降は、これまで出てきたことを再度示したところです。経済の波及効果ですね、まちづくりの効果としてどういうことができるかをまとめてあります。

その他、28 ページから用地条件において、それぞれの場所の状況をまとめてあります。さっき、ちょっと触れましたけども、中央公園自由広場・芝生広場等のところでは南北の制約があるということですね。それと、都市公園法の関係のことで、自由な施設造営が難しいことについても触れています。あとは、旧広島市民球場跡地での高さ制限ということですね。

そういったことを見ると、広島みなと公園が他のところより用地条件としては有利だということにしてあります。

環境条件、これは騒音対策や日影規制ということも踏まえてですが、そうすると中央公園自由広場・芝生広場等については、やはり直近に小学校も含めて住宅があるということで、そういったところは騒音対策が必要だということです。ほかのたくさんのところでも騒音対策は必要なんですけども、中央公園自由広場・芝生広場等だけではないということで、こちらの方に優位性ということを書いてあります。

牽引性については、これは観客動員数の予測という点から見ているわけですけども、広島みなと公園よりも、中央公園自由広場・芝生広場等、旧広島市民球場跡地が優れているという状況です。

発信性については、やはり、旧広島市民球場跡地は、原爆ドームという地元広島のシンボルに隣接するという部分で、広島を強く印象付ける施設になるだろうということです。中央公園自由広場・芝生広場等についても、そこはできると、いわゆる記念資料館、原爆死没者慰霊碑それから原爆ドーム、そういったものが直線状に配置されておりまして、広島を戦後復興する時に、一つの大きな軸として、いわゆる背骨として機能したというところがありますね。そういった一つの軸線上にスタジアムがくるという意味から、大きな意味での発信力ができるといふふうにしてあります。

広島みなと公園の方は、そういったものとは違って、この地域の特徴である海というのが、これらと一体的な部分での発信性はあるだろうと。ただ、どうしても旧広島市民球場跡地には及ばないだろうということです。

防災機能は、どちらも同じレベルであります。

周辺機能との連携というところだと、都心部の商業施設等とも隣接している旧広島市民球場跡地というのは優位だろうということにしてあります。

迅速性については、これは関連する規制の数でいいです。その内容まではなかなか判断しづらいところもありますので、それで見た時にということで、その場合は中央公園自由広場・芝生広場等と広島みなと公園が優位だろうということですね。それぞれ、あとこういったことにも対応しなければいけないということは思います。

31 ページのところは、事業主体としてどうするか。これはなかなか、そこまでの議論にはいたってなかったんですけども、例えば今新しくスタジアムを整備しているガンバ大阪の吹田にできる新スタジ

アムですね。こういったものは民間主導で行われていますし、PFI 手法というのも行われています。そういうことを考えていくと、今後はということで、こういったほかの先をいくスタジアムの事例を踏まえながら、PFI 手法などの民間の活力を最大限活用して、税金の投入が少なくなるような整備手法や、市民の機運醸成を捉えた時宜性ある整備スケジュールを示す必要があるだろうということにしています。

管理運営については、ここは指定管理者制度の導入についてということです。このあたりも、事業主体をどうするかとか、管理運営方法についてあまり深い議論ができなかったところから、最近の動向を見据えてこういう方法でやっていきたいということで、しております。

あと、32・33 ページにかけては、それぞれちょっとあがった課題ですね。これは以前のところでも出しておりますけども、それを個別にはこういう課題があるというふうにまとめています。

中央公園自由広場・芝生広場等については、やはり一番は南北方向では敷地の制限と直近の住宅に対する対応が必要ということです。

旧広島市民球場跡地、これはどうしても用地として物理的に狭いというところですね。それと高さ制限があるというところ。このあたりが難しさを引き起こしているということです。それから、もともと地下にもいろんなものがあって、そうしたものにコストがかかるだろうということです。狭い部分でいろいろ周辺地域の人々に制約があるだろうけれども、周りにも施設があるんで、若干緩和される可能性があることについても、さらに言及しております。あと、もし掘り下げてしまうと、芝生とかでも問題があるだろうということにも触れています。

広島みなと公園、ここについては、一番はアクセス性という議論がありました。現在の広域公園でも問題になっているところ。この部分で、大量輸送という部分では、アクセスでシャトルバスを活用しなければ難しいだろうということでした。インフラ整備等までは議論できなかったということです。あとは国庫補助金、あるいは代替地ということですね。それと、この場所は複合開発、あるいはメッセコンベンション機能との連携ということは、かなり期待をできるころではありますが、ただ、それは整備主体が異なるので、期待することしかできないというところがあります。これらのことが課題としてあったということです。

それと、あとは既存の類似施設の課題ということで、現在のエディオンスタジアムについてはということです。候補地としないということでしたけれども、そういった時にどうなったかということで、ここは反対に現在使われているような陸上競技場としての使い方がありますし、今は年間 70 日ぐらいは使われているということでは、地元のサッカークラブで使われているということがあります。この部分がなくなるというところで、新たな使い方が導入できるだろうということです。ということで、できるだけその部分を活性化していくようにしていただきたいというふうにしています。

それから、まとめについては、これらを受けて今回、各委員のご意見をいただかないといけないんですが、議論の経過、それから過去の類似性の課題については、その点について今までまとめたところのポイントだけになると思うのですが、そのあとに協議会が絞り込んだ候補地ということでした。ここはやはり、どうこれらの今まで検討したことを踏まえて、本当の候補地にするかということになると思います。

こういったところで、一応まとめているわけです。ちゃんと説明をしましたので、コストの点に関しては内容の理解ということでやっておりました。そこも踏まえていただかないといけないと思っています。そういった中で事前をお願いしていたんですけども、これから各委員とも、順番という形で意見をお聞きしたいと思っています。広島に相応しいスタジアムということを私たちは問われたわけですけども、それはどういうもので、それを実現するためにふさわしい場所はどこであるかということについて意見を述べていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

小谷野委員

今回のドラフトでちょっと残念なのは、私が11月の上旬に出したコメントがさほど反映されていなかったところが、まず一番残念です。総論の前にそこをまずお話ししますとですね、3万人規模以上、以上という言葉が、いまだに適正規模としてついていることに関しましては、繰り返しになりますけれども、最大規模、マキシマム・ロードでなくてアベレージ・ロード、平均観客動員をここにスタジアムを造っていくと、基本的なスポーツビジネスの原則が損なわれているなという感じがいたします。

また、今回の議論の中を通してですね、我々も非常に財政の厳しい中をやってきたわけですが、この資料の5ページ目にある通りですね、広島都市経営戦略のひとつとしてスポーツ振興によるまちづくりや地域活性化が重要であり、サッカースタジアムは広島の魅力を向上、賑わいの創出のための重要なツールだと。いわゆる広島のサッカー、それを支えるサッカークラブの経営の面についてですね、もっと焦点を当てて議論をしていただきたかったかなという思いが強くなります。

もちろん、サッカースタジアムを造るためには、公的資金の投入があるわけですが、私サンフレッチェ広島の社長であると同時にですね、筆頭株主のエディオンの顧問も務めておりますけれども、サンフレッチェ広島が過去、経営危機だった後ですね、広島のサッカーを支えるべく、経済界から要請があった中で、今のクラブの会長をしております久保さんのところに経営再建の依頼があり、過去エディオンは70億円以上のお金をスポンサー料としてサンフレッチェ広島を支えるために使っていました。マツダがこれまで出してきた金額もほぼ同額であり、実はサンフレッチェ広島の経営を支えるために140億ですか、ほとんどスタジアムを建てるのと同じくらいのお金を両社だけでも払ってきたという事実もございます。このサンフレッチェ広島のサッカー、広島のサッカーの芽を絶やさないために、是非とも皆様にご配慮をお願いできればと思います。

そうした中でサンフレッチェ広島の経営と広島のまちづくりのwinwinを達成していくという意味におきましては、やはり旧広島市民球場跡地で既存の商業設備との集積効果を図っていくのが、投資効率等が一番いいところだというふうに考えております。

今回のスタジアム協議会の議論に関しましては、議論の中から査証されておりますけれども広島みなと公園に造る場合には、数々の手続き、これは評価の二重丸になっておりますが、わたしはこれを何回も申しておりますが、過去プロジェクトを何回もやってきた経験から言いますと、代替土地の確保とか本当に大変だと思います。代替土地を仮に取得しますと、いくつかの民間の不動産会社、建設会社から試算いただいたんですが、同じ土地を周辺の路線価から考えますと、60億から120億かかるということで、これは今回のスタジアム協議会の議論で、捨象されている部分ではありますが、非常に大きい問題ではないかというふうに考えております。

また、これは永田委員にご説明いただいた点もでございますけれども、現在どうにかこれはアクセスと申しますか、広島みなと公園のところの輸送、どういった切り盛りができるというぎりぎりのところでございます。管理的な観戦環境、それからリピーターを創出するという仮定からしますと、運営上非常に厳しい。本当にこれ31.1万人というのは、今のコンサルタントさんの1試合あたりを20倍した数字ですけれども、我々は本当にここまで集まるかどうか分からないという、本当にこれは危惧しております。サッカークラブの経営という意味からしまして、これは非常にチャレンジなところが多いのかなというふうに本音のところでは思っております。

一方で、スタジアム建設協議会のまとめで、私はどうしたらいいかといいますと、率直に言って、場所をどこかというよりも、今回のスタジアム建設協議会では、まだ通常のこういう協議会の4回目か5回目だと前回私言いましたけれども、これから協議会の内容を深めていく過程のところ、議論が終わってしまっているというのは私の現在の感想であります。

今与えられた材料の中で、3カ所残った中で、どこがいい悪いというのを言うのは判断力のあるひと

りの大人として恥ずかしいことじゃないかなというぐらいに、今の協議会の内容は、主体的な意味での総合的なまちづくりの議論がここにいる議員の中でどこまでできたかという、そこは非常に私は疑問符がつくと思っております。

また、市民の声を聞く、ユーザーとしての意見を聞く、こうしたところが実施されない、あるいは、委員の中で議論されないままに終わってきております。本来、こういった資金調達ですとか、こういう設計、収容人員の議論というのは、本当に設計士とか入れてやるべき部分だと私はずっと思っているんですが、その部分が非常に中途半端な議論に時間を割かれたわりには、ユーザーや生活者、サポーター目線の議論、こうしたところがほとんどされてないと。40万人の署名を集めた中でも、圧倒的にアクセスが大事だという議論があったのに、その件は触れられただけで、真剣に考えられていなかったんじゃないかという思いがいたします。

したがって、私は旧広島市民球場跡地しか、サッカークラブを検討してみるとスタジアムはないというふうに思う一方で、今回のスタジアム協議会の結論に関しましては、3カ所についてメリット、デメリット、どういうことが検討されたのかという併記に終わらせるべきであって、安易なまとめはすべきではないというのが私の結論であります。

高木委員

私は、異質な人間なもので、皆さんのように知識の部分が低くて、発想が少し違うかもしれませんが。まず、ものを作るには、そこにスペースがあったら何を作るかということから入ることがございますが、それを私たちは「箱もの」というんですけれどね。そうではなくて今回、テーマというのはここにありますように、「新たな広島のシンボルとして、広域的な集客効果を高めるなど、広島市ひいては広島県全体の活性化にもつながるものが期待される」ということになっていまして、その中からいろいろ考えました。

そうしますと、やはり新しいものを作るということは、ある程度リスクを負いながらチャレンジが必要じゃないかなというふうに思います。

それで、ちょっと疑問に感じましたのは、この「ランドマーク」という言葉が、たまたま旧広島市民球場跡地のところにだけ使われているのですが、それはコンセプトが別に悪いんじゃないかと、はじめに思いありきで、はじめにどんなスタジアムを造りたいかという、その思いが先にあるべきだったと思います。それは議論なされないままにきたもので致し方ないことですが、ランドマークというのは、それがあって1回は行ってみたいという街のシンボルです。だから、どこに作ったとしてもランドマークはめざせるはずだと思います。

そういうことから考えまして、もし「広島に相応しいスタジアムとは」というテーマを与えていただいたら、やはり、新しい革新といいますか、過去の伝統には敬意を払いながら、やはりこれからの街のためにもっと新しい考え方を入れるべきではないかと。それで、日本では必ず訪れてみたいナンバー1のスタジアムをめざしたいなど、そういうふうに感じます。今、都市は確実に進化しているわけで、そうすると、人の暮らしの中で自然に溶け込むような都市再生に手本として、サッカーチームのホームグラウンドとして、非常に市民が誇れるようなスタジアムができればいいな。これが夢です。でも夢をまず描いて、それをどうしたら実現できるかということで、個人的ですけど、過去商いはそのように順番になっている。ちょっとお役所のやり方には馴染めないところがありまして、本当にちぐはぐなことを申し上げているかもしれませんが。

新しく作るということは、やはり一段と、今までにない、技術革新も含めて、そういうものを追求しながらチャレンジすることではないかと思っております。

じゃあどこがいいかということになりますけれども、それはそういう志といいますか、そういう部分

に関して共有できていないままに今日にいたりましたので、ここがいい、どこがいいということは、ちょっと今の時点では選びにくい段階かなと思いますけども、ただ、どんなものを作りたいという構想の中で、それができるのはどこかということになりますと、場所は限られるんじゃないかと思います。そういうことを考えました。

塚井委員

今までお話しになったお二方は場所でしたが、私が思い描いているのはここだと。ですが、ちょっとそこに至るまでの前の部分を整理して申し上げたい。

このたびの協議会のテーマは、サッカースタジアムをどこに造るかであったかだと思います。そこからできるだけ外れないように、発言は十分気をつけていますが、気になっていたことがございます。それは、中央公園自由広場・芝生広場等などはそうでもないんですけども、この旧広島市民球場跡地は都市の中心というのをどうやって生かしていくのか、そういう観点がどうしてもいると思います。それは景観の問題だけじゃないと思います。

そう考えた時に、最初にやはり開催試合数の問題、それからこの施設に付帯させる高機能という議論が少しございまして、これにかなり期待してしまっていて。なぜこう申し上げるかと言いますと、都心にあるべき施設というのは、それなりに多くの方がそこに立ち寄っていただけるものである。これは、何を作ってもそうであるというのが、都市計画を専門とする私の基本的な考え方です。そういう観点で言うと、やはりちょっと付帯機能をかなり工夫していくということをして、有効に活用していくということが、おそらくサッカースタジアムを成立させるならば、重要なのだろうというふうに思っておりました。この点に関しましては、実は、少し、小谷野委員と同じ意見をもっていて、もうちょっとそのあたり深掘りしてきてみたかったなど。いろいろな施設を造ると、どれくらいの方が来ていただけるのかなというようなことを具体的に思い描けなかったのは残念なところであります。

とはいうものの、限られた材料の中で考えていきますと、例えば3万人という規模を考えると、旧広島市民球場跡地などはそう簡単ではないだろう、出来ないことはないと思いますが。費用面の話ですね。そして、もうひとつといいますのは、何度もこれ申し上げていますが、スタジアムの周辺の空間をきちんと取れるかどうか。これがスタジアムの出入りをされる方の快適性を決める。また、この周辺の状況でひとつだけ不備な点があるとすれば、それは歩行者動線というものがきちんととれるかどうか、これに関して少し懸念があります。これからの工夫によって何とかなるかもしれませんが、もともとの空間が狭い所はやはり不利です。

こういうスタジアムをこちらに造った時にどうなるかということを考える時に、少し条件としては苦しいのかなというふうに思います。その意味で、少し幅広の都市計画の観点から申し上げますと、広島には他にも課題はございます。中心の街をこれからどうやって施設を、将来残れるものを残していくのか。現状にある施設を更新していくのか。そういう意味で考えた時に、中心部の用地というのは、サッカースタジアムオンリーで考えること本当にいいのかということはずっと思っていました。ただ、この場ではない、私もそこまでの議論ができるような、見渡した検討ができているわけではございません。サッカースタジアムのほかに一体何があるのか言ってみると言われると、なかなか申し上げにくいのでこのあたりにしておきますが。これを考えますと、可能性としては諸事情を考案すると、広島みなと公園ではないかと思っております。

確かにご指摘があったように、交通アクセスの問題はいろいろ見させていただきましたが、厳しいと思います。相当な工夫が必要で、こちらにするのであれば、ぜひ、今も書いていただいていますけれども、相当な配慮をいただきたいということだと思います。しかしながら、高速3号線が東西で使える、これを最後に指摘しておきたいと思います。

去年までと状況が違うのは、花火大会の時と状況が違うのは、東からも西からも使えるようになった。このことをよく考えて、用地をしっかりと整備していただければ、アクセスは緩和できるだろうと思っておりますが、このあたりは詳細な設計をしていかないと分からないと思います。そういうことで、もちろん精査が足りないということは若干私も感じております。これをもって、じゃあ他の2地点は可能性がないということではないと思いますが、相対的に申し上げると、広島みなと公園の方が、広島の将来にふさわしいサッカースタジアムとしてのシンボルとしてあの場所を盛り立てていく。そして、ほかの2つの場所についても、都市の中心の一つとしていろんな施設を考えていくという可能性を残す最も賢明な選択かなというふうに思っています。以上です。

永田委員

私の方から申し上げさせていただきます。スポーツビジネスというものを研究している中で、そのビジネス、サッカーというスポーツを活用したまちづくりというものが、いろんな都道府県でできています。スポーツを活用する中で、街をつくっていくという考えでいけば、当然ながら候補地は絞られていきます。

簡単に、まずスポーツ、スタジアムの周りでの賑わい、どうしてもちょっと残念なのが、事前で広島東洋カープが旧広島市民球場で試合をしておりまして、で、マツダスタジアムに移りました。これは議論されず、簡単に決まっていたというようなイメージがあります。ただ今回、サンフレッチェ広島並びにサッカースタジアムという形になると、非常にこういったハードルが出てくるなというのは、ちょっと不思議に感じています。

実際にですが、私も経営が専門ですので、いろんな数値がこの協議の中では出てくるんですが、かなりアバウトなもので、ザックリとした数字で、でもなぜか知らないがベネフィットだけ出てくる。ただし、そのコストが全然出てきていない。だから、要するにこの3カ所は同じ基準での評価になっていないといえますか、同じ土俵に上がっていない。その中であえて選択しないといけないというのは非常に厳しい状況になるなと思っています。

私も当初、この会の最初の頃に、各地域の方々のヒアリングをすべきだろうという話もさせていただきました。本当にここにきていいのか。ここに欲しいのか。ここであったらいいのか。住んでいる方がいらっしゃいますので、そこでどういったビジョンをお持ちなのかということ、ぜひ今後、改めていく必要があるのかなと思います。

コストの面からいきますと、当然ながら、広島みなと公園では代替地、補助金の返還額が不明であると。それから中央公園自由広場・芝生広場等であれば、本当にその辺の道路インフラ、広島みなと公園もそうですけれども交通インフラ、要するにスタジアムが機能するまで、実際スタジアムができるんじゃないかと、スタジアムが実際にそこでゲームができるように人が行き来するために、どれくらいのお金がかかるのかというのをまず明確にしていなかったというのが非常に残念です。

で、今回、旧広島市民球場跡地でどうしても問題になっていったのは高さ制限で、なぜか分からない、3万人規模というだけで限定されたという形です。3万人規模というのは、先ほど小谷野委員からもありましたように、通常3万人というスタジアムは、よほどのスタジアムでない限り、商圏でない限り3万人は必要ありません。前回、前々回もお話しましたが、メジャーリーグサッカーの方では、ニューヨークにおいても2万6000人のスタジアムです。その中で広島という都市圏、街の範囲の中で3万人、ピークロードで設置をして3万人でさらに拡張という非常に厳しく、もしかするとそれが今後の形どうなるかは分かりませんが、今、現時点で作るのであれば、そういった規模の話はかなり足枷になっている部分、なにか不透明な3万人というのが出てきたなという気持ちを持っております。

簡単に、どうしても最後にいきますと、誰のためのスタジアムなんだろうなというのは非常に疑問に

思っております。それから、何をターゲットにして、そこにスタジアムを置こうとしているのか。アクセス、まずそれが一番重要であるだろうと。そのアクセスをないがしろにしながら、先ほど交通の面で広島みなと公園がありました、さらにその辺に渋滞が起きるだろう。まさしく高速を利用するということを前提にしていますが、高速じゃない方も沢山いらっしやいます。だから、気軽に来る。いろんなタッチポイントから、キッカケからそこに訪れる、スタジアムを訪れるということが重要であり、それを容認することの施設が重要だろうと。トレンドである街中スタジアム、小規模なスタジアム、そして忘れてはならないのは、広島というのは70年前の我々の先代の方々が復興でずっと平和を訴えてきている街です。この平和をなくして、スポーツは語れないというのは当然のことであり、五輪憲章においてもスポーツと平和というのは必ず大きく謳われている部分です。平和、それを訴えるのであれば、まさにスポーツが重要であり、さらに広島の動線、丹下軸の中にある旧広島市民球場跡地というのが、私は選択する必要がある、我々はそれにおいて世界にない平和を訴えるスタジアムとして作るべきだろう。そして、その一帯を、スポーツパークとして、グリーンアリーナ並びに弓道場とかいろんなものを含めて、作るべきだろうと。スポーツをする、参加する地域にしていくと。簡単にいえば、複合開発。もうすでにある、それを一緒に連携して、点と点であるものを線で結んで面にしていくという形で、スポーツによるまちづくりを今後広島は考えていく必要があると思います。

そのためには、都市の中心部である紙屋町、八丁堀地区、それらを元気にする必要があり、とくに昨今カーブが駅の方に移って、紙屋町そこに新たに賑わいを作っていく。これは都市圏のまちづくりとしては重要であろうと。さらに、スポーツコミッションとしても該当するだろうというふうに考えて、私は旧広島市民球場跡地というもので、なおかつ規模を3万人でなく、適切な規模。小谷野委員もおっしゃった、これはここにも併記すべきだとは思いますが、2万7000人とかですね、2万6000であれば掘削が必要ないんですね。この54億というのはこの数字かというの、ちょっと分からないんですが、それは置いておいて、まずスタジアムのパースを描く必要もあるし、それにおいて広島が世界に誇れる街というのはやはり平和を訴えながら、スポーツとともに生きていくということの後世、次の世代にバトンタッチしていくべきだというふうに思っております。

野村委員

私は最後でもいい、あまりにも関係者が多すぎる。サンフレッチェ広島がまずできる時にマツダがいったん手を下ろしたわけです。1990年に、マツダがいったん手を下ろしてプロには参加しないということがあったんですが、そこで知事、市長、商工会議所の会頭、そして県サッカー協会の会長が、それはやるべきだということで再度マツダに行って、マツダのトップの人に何とかしていただいてサンフレッチェ広島ができたわけです。

アマチュアでいくという話もあって、それは最後は出来上がったわけですが。出来上がって、サンフレッチェ広島が成功するためには何が必要かということで、私が言っておいたのは、とにかく強くなることと、しっかりサポーターに来てもらって応援していただくこと。そして、財政的にもやはり、スポンサーが集まること。経済界からの応援がなかったら、できないよというようなことを言ったんですが、それが私の言っていた「3本の矢」なんですけれども。それが現実に今マツダからエディオン、デオデオ経由で今エディオンになっておりますが、非常に久保会長の了解を得て、協力を得て今が現実にあるわけです。是非そこは忘れないでほしいということです。そしてこのスタジアムの検討造協議会ができたのは、約40万人の署名がきて、こりゃ何とかせにゃいかんということで市が動き始めたわけでした。やはり早期実現というのが、皆からの、この40万人の署名ではなかったかというふうに思います。

そして40万人の署名がきたということは、今のエディオンスタジアムが非常にアクセスが悪い。そして、見にくい。ピッチまで遠い。日本で一番遠いピッチじゃないかと思うんですが。ぜひそれを何とか

してほしいというのが40万人の希望なんじゃないかと思います。ぜひ、皆さんにも見ていただけましたら、ノエビアスタジアム神戸は臨場感があって非常に見やすい。先日、ナビスコカップの決勝で埼玉の方にも見に行っていた皆さんにも、埼玉はあれだけのスタジアムでも非常に臨場感があって見やすいということで。あそこで優勝してくれていたらまだここで刺激ができていたんじゃないかと思いますが。残念ながら逆転負けしたのですが。とにかく、観客席からの応援、選手の息が、ボールの音が観客に聞こえるというのが非常に大事だと私は思います。

それから、試合が終わって、今の場合でしたら、早急に帰らないと、焦って帰る。早めに出て混雑を避けて、早く帰ろうとする。とにかく、家に帰ることを、焦って帰るんですが、非常にアクセスのいいところなら、それを考える必要がない。ということで、やはり終了して焦って帰らんでいい、そして周りに街があるから、その街に行ってあと語らいができるというふうな、今日の試合はどうだったねというような、あの選手よかったねというような、そういう輪ができることが非常に大切だというふうに思います。

そうすることによって新しいスタジアムに夢ができる。先ほど永田委員も言われましたが、旧広島市民球場跡地の場合にしたら平和にもつながるし、スポーツの1つの流れがここにありますので。旧広島市民球場そのものが昔の経済界の二葉会が造っていただいた野球場だったんですが、それを他のものじゃなしにスポーツに使うということが、非常に大切じゃないかというふうに思います。

ぜひ、ここで夢のあるスタジアムを造る。我々がその夢のあるスタジアムを造っておかないと、後世、我々はそんなに長生きできませんが、今の子供たちに夢がないものを造らないように、ぜひしていただきたい。旧広島市民球場跡地が私は最適だと思います。

川平委員

はじめに申し上げたように、私はこういった特殊な知見があるわけではございません。ただ、この会議が昨年始まる時にも複数回申し上げたのですが、私は、実はサンフレッチェ広島後援会の役員をしております。これは7年やっています、サンフレッチェ広島がJ2に落ちたときがスタートでした。エディオンスタジアムには相当行っております。そういった意味ではサンフレッチェ広島に何とか頑張ってもらいたい気持ちと、そういった観戦をする中で、やっぱり専用球場が欲しいなという思いは強く持っております。そういった前提があるんですけども、サッカービジネスのことを考えた場合、残念ながら、試合数が圧倒的に少なく、なかなかビジネスモデルが描きにくいという気がいたします。そういった中でサッカースタジアムを考えることは、ひとつは市民・県民が本当に納得できるものを造りたい。さらには、それがサッカーファン以外にも利用できる、そういったものに当然しないといけないかな。サッカーファンだけが楽しめる施設であってはいけない。

そういった中で候補地を考える時に、広島みなと公園、旧広島市民球場跡地などいろいろありますが、なかなか政策をどうするかというのは、私にも懸案です。その中で、私が何点か候補地を検討して考えたひとつは、将来性というのを考えました。今、我々が考えているものが、20年先、30年先にどうなるか分らんという思いがあります。そうすると将来にかけて拡張性が確保できるような場所を考えるべきではないか。それともうひとつは、冒頭に申し上げましたように試合数が少ないということがありますから、サッカーファン以外のほかのイベントも取り込む。そうなると、機能的には多機能複合型といった施設を造らないといけない。

そういうことには当然コストがかかるわけで、それは市民、県民の税金を使うことになるわけですが、そういうことを前提とすると、複合化によるスタジアム相乗効果でまちづくりに対してつながるというのが実感としてございます。規模についてもなかなか、正直申し上げて何万人がいいという明確な考えを持っているわけではありません。しかしながら、この報告書の中にもありますように、国内の

サッカー専用球場が3何万人以上のスタジアムが4カ所しかないというのは、国際大会を誘致するには3万人以上でなければいけないとか、そうじゃないとか。しかしながら、国際競争力といいますかね、そういったものからすると3万人程度というのはぜひ想定したい。

それから当然のことながら、アクセス面についても、軌道系、バス、高速道路、そういったものが必要。そうした中で私が第一の優先で考えたいのは、広島みなと公園であります。これは、今申し上げた拡張性の問題、それから複合開発の可能性がある。当然アクセス面については旧広島市民球場跡地には劣る。しかしながら、既存の公共交通機関とか高速道路を使う中で工夫はできるのではないか。ただ一つの懸念としては、緑地公園からの用地、土地利用計画からの見直し、それに伴う補助金の返還、これについては十分関係されているので、調整する中で検討していただきたい。以上です。

加藤（義）委員

ちょっと3つほど意見があるんですが、ひとつは今日まとめられたものについてお願いしたいと思うんですけども。まずはじめにというところの3行はとってもらって、前に議論をしていますが、今回の協議会では必要ない。それはなぜかということについては今触れませんが、それから、12ページに、一番下に「なお、協議会における」というのは説明がありましたけれども、今はまだ設計もしていない、どこかの箱モノを持ってきて考えただけというようなことから、きわめて大雑把で、まだデザインしていないんですね。ここはデザインをしてみて、検討する必要があると思います。その中で工夫の要素もあるんじゃないかということはこの文章の中に付け足していただきたい。

それからもうひとつは、後になります、参考資料ですね。参考資料の中の第2番のところで、総合評価としての、前々からずっと急いでおりますが、合計のカウントというのははずしてもらいたいということでございます。これは、いろんな検討があると思うんですが、例えば◎が3点で、○が2点で、△が1点という話になると、やっぱり、例えばコスト性あたりは、旧広島市民球場跡地が1点で、広島みなと公園が3点になることは、評価が3倍になるんですね。3倍になったら、中央公園自由広場・芝生広場等で190億いくのが、広島みなと公園なら140億で済むじゃないか。140億で済むかどうか。3倍も値打ちがあるかどうか。そんな思いから見て、ここのところのウエイトを私は10点、10点のウエイトで配分していったら、まったく逆転するんです。それくらい非常に弱いデータなんですね。だから合計ははずして、それぞれの評価はあってもいいと思いますが、これを合計してトータルの評価をするというのは、市民に説明ができないと思っています。この中で、まちづくりの波及効果と、あるいは複合開発というのが、それぞれの評価があるんですね。これについては、コスト性と相まって言うんですが、広島みなと公園も複合開発ができるんじゃないか、まちづくりの波及効果があるんじゃないかという時に、やはりここにはそれなりの施設を作らなきゃいかんですね。例えば今、マツダスタジアムがあるように、大型のスーパーができた。それから、フィットネスなどいろいろ。そして、今ホテルと結婚式場ができる。そういうことはやっぱり別な民間の資本なんですけれど、まちづくりとしては、広島みなと公園にそれだけの波及効果ができると評価するならば、コストにいっぱい入れておかなければいけない。そういうことから見れば、非常にこれは偏った評価になるということが言える。

それから、広島みなと公園の場合は、いろいろまた拡張性という話もありますが、例えばマツダスタジアムは拡張性で、あそこに新しい街ができた。旧広島市民球場跡地の場合は掘ることもいらないし、結婚式場もいらないし、スーパーもいらない。他に拡張する必要があるものはない。何があるかといえ、複合施設とすれば、今回のレポートでは商業施設に非常にこだわって、商業施設ということで規制がいっぱいあるんですが。例えばスポーツの施設、フィットネスもあろうし、健康管理・保健の施設もあろうし、必ずしも利益を上げる商業施設には入らない複合施設というのがあるわけです。病院だってあるわけです。そういうことから見ても広島は、果たしてほかのところと充実しているかどうかと

なれば、広島はまだ十分ではないと思う。そういうことからみれば、複合開発という意味からも、旧広島市民球場跡地が非常に残念という評価はふさわしくない。あとは何かというと、スタジアムを造ることによって人の流れを作っていこうと。もうちょっと今ある街を評価していこうじゃないか。そういう思いは、旧広島市民球場跡地の場合はあります。ビアホール、ビールのいろいろなイベントをやれば、周辺の店にビールを飲みに行く人はなくなるわけですね。それからフードフェスティバルは、周辺での食事をしないから。そういうことから見て、今ある街があるわけですから、それをいかに活性化していくかという意味で、人を集めることが必要なんで。そんなに収益、収益というところを見るのではなくて、広島市に相応しい、税金を投資するというのがずっと出てくるわけですけど。じゃあ税金を投資してもやはり 100 億というのは非常に高いじゃないかと。それだけに慎重にやるべきじゃないかと。それよりはもうちょっといいのはないかと。まずもって、デザインがない。どんなものができるかというのを全然していない。したがって、そこの地域、地域の皆さんが「私たちのところに、こんなものができるんだよ」「あ、いいね。できてほしいね」というふうなデザインを作るべきだと思います。

ただ、前後していますけども、今回のレポートについては、私は十分だと思っています。この広島は、この広い土地で、評価をして、今 3 地点に絞ったということで、3 地点に絞った中で今の規制とか、課題とかいろいろ整理して。ある意味では、規制と課題を整理しただけに留まっているのかもしれない。その上で今から、どんなことができるかというのが今から必要なんです。

ですから、今回の 33 ページまでは、ぼくは十分だと思うんですね。それで、よく分析をされていて、今からは、それをどういようなものを具体化していくか。詰めていくとか。最終的にどうするかというのは行政の仕事じゃないかと思っています。そして、それを市民に、地域の人に見せると。そういうことが必要になってくるかと思っています。

だから今の段階で、非常に大雑把な段階で、どこかに決めつけるという話が、今まで新聞やいろいろマスコミ関係の報道になりますが、それは私は反対でございまして、ここまで 3 点に絞って、これだけ整理されれば、あとの仕事は随分しやすくなるんじゃないかというふうな考えです。

3 点と申しましたが、ひとつは何としても、広島にふさわしい、広島の市民が喜ぶ、それから夢を作るものを造らないといけません。そういうところから見れば、必ずしも 3 万人にこだわる必要はない。やはりまだ詳しい設計も何もしてなくて、大雑把に、それぞれ本気でプログラムモデルを、あるいはデザインをするべきだと思います。例えば、150 億のプロジェクトの場合は、そのために 1 億ぐらい使っても 3 案は無駄かもわかりませんが、思い切ってそれぞれ詳しい検討をして然るべきなんです。そうしないと将来の広島の夢づくりには結びつかないんじゃないかなと。今回の段階では決められないと思いますので、ここまでで私は十分だと思います。

加藤（厚）委員

私の方から若干意見を述べさせていただきますが、私は全くの門外漢でして、サッカーとは関係しないという立場から申し上げたいんですが、場所の問題として、中心部をいかに開発するかという、旧広島市民球場跡地は一等地なわけですね。ここをスポーツの観点だけで特化して考えて、果たしていいのかなというのは、私はずっと思っていたことでして。都市開発の可能性を考えると、ほかの用途開発の可能性を残しておいたほうがいいというのが私の立場です。一度サッカースタジアムを建ててしまうと、数十年間は動かさないわけであって、そこを開発するという可能性は完全に崩れてしまう。

私が常々思っているのは、私は教育関係者なんですけれども、広島の場合は教育機関、大学を特に郊外に出し過ぎた。中心部に若者がいないという問題がありまして、こういうことを考えると、やはり、将来的にもう一度教育機関、広島市立大学とか芸術大学を中心部に戻して何とか中心部の活性化につなげられるということがあるんじゃないかなということを考えております。

やはり第1点目は、100億という単位のお金を投入するわけですから、サッカーだけじゃない人とも楽しめる、サッカーファン以外の人も楽しめるということが、やはり税金ということですので、市民や県民の賛同を得ることが必要なんじゃないかなということですね。

そういうことを考えますと、旧広島市民球場跡地はどうしても複合開発がしづらいということと、現段階では規模の問題があるわけですが、コストがかかり過ぎているという点で無理なのかなという。私の場合、ちょっと消去法的なんですけれども、そういうことを考えますと、やはり、現段階では複合開発が可能であって、コストをなるべく抑える可能性がある広島みなと公園の方が若干有利かなというような観点で考えております。

まあ、規模の問題ではいろいろな立場があるので、必ずしも3万人に限定すべきかどうかについては意見が分かれると思いますので、最終的な提案としては、併記的なことになるのかなあとと思います。以上です。

鶴野委員

はい。それでは意見を述べさせていただきます。まずは、非常に長い期間にわたりご苦勞様でございました。今回、時間をかけて議論を重ねたんですが、各評価については、最後まで残った3候補地については「ほとんど差がない」という結果だったんだろうと思います。規模を変えてしまえば評価基準も変わってきますので、そういった中で、私のサッカーおよびまちづくりについて、自分の経験と見てきたものをベースについて、自分の意見を述べさせていただきたいと。

で、課題よりも、どうすれば魅力あるスタジアムが造れるかなということを中心に意見を述べさせていただきたいと思います。が、その前に、場所がどこに決まっても、やはり我々の夢である新しいスタジアムを造るということについて、是非とも今後スピード感をもって進めていただきたい。これが私の最大の希望であり、意見であります。

当然、協議会の中でさまざまな議論の限界等があったと思いますし、なかなか議論が進まなかったところもあったんだろうと思うんですけども、今後一番大事なものは、できるだけ早い時期に夢をかなえて欲しいというのが、最大の意見であります。

最終的に、広島のみちづくりにおいて、どこに賑わいを作りたいのか。シンボルとしての広島らしさ、平和のメッセージを発信できるスタジアムは、どのようなものなのか。また、より多くの県、または市の人たちが、広島市で希望する場所はどこなのか。最後に適正規模、そういったものがキーポイントになるんじゃないかと私は思っていますが、結論として私の意見は、旧広島市民球場跡地を第一候補、広島みなと公園を第二候補ということであります。

その理由としまして、まず最初に、将来的に大規模な大会が誘致できるのは、これは拡張性に優れている広島みなと公園というのは明白なんですけども、今後の広島の人人口であったり、中心部の賑わいを考慮すると、広島の身の丈に合ったコンパクトで美しい、最終的には2万7000人、今回のスタディーのレベルの規模のスタジアム、広島らしさを発信できるソフトとハードが実践できるスタジアムを旧広島市民球場跡地に建設すべきだろうと考えています。

Jリーグだけでなく、平和公園とかフラワーフェスティバル、そういったこととの連携による事業、例えば美術コンサートであったり、美術カップであったり、折り鶴の関係の事業であったり、パブリックビューイングであったり、そういったことをすることによって、広島を中心に国内外からより多くの人たちが集う、そういった場として、世界でも最近では珍しい街中のスタジアムを建設していただきたい、というのが意見であります。あくまでもコンクリートの固まりのような大規模な箱ものスタジアムというのはやめてもらいたいと思いますし、規模よりもあくまで広島らしさに私はこだわりたいと思います。それが1点目です。

2点目としましては、これはアンケートにもありましたけれど、ほとんどの方々の最大の希望は、交通の便のよい場所、行きやすい場所を希望されています。そういう観点からしても、やはり、中心部が良いだろうと思います。

3つ目としまして、これはサンフレッチェの経営状況も含めて、当然、企業努力は小谷野社長を筆頭にされると思います。が、やはり、より優位性のある経営という面では、旧広島市民球場跡地と思っています。

そして最後に、これが一番大事ですけど、広島のまちづくり。今でも郊外の開発は進んではいるんですが、やはり都市機能を集中すると。今、旧広島市民球場跡地にすばらしい代案があれば別なんですけど、私が知る限り、そこまでの人が集められるような案というのは、私は無知で知らないのかもしれませんが、ぜひともコンパクトなまちづくりを進めて、広島を中心部に人を集めるということであります。結論ですけれども、あくまでも規模よりも広島らしさの出るスタジアム、そういったものを建てていただきたいというのが私の意見であります。以上です。

山根副会長

それでは、私は今までこうやって、サッカー関係者のご努力、あるいはスポンサーのご努力で、サッカーファンが増えて、そして、サッカースタジアムを建設するという議論が巻き起こってきたということ、あまたの関係者の方々に非常に敬意を表すところであります。ここまでこられたというのは、すばらしいと思います。しかし、今からは、広島に新しいサッカースタジアムを是非早期に実現したいということを私は強く思います。やはり、国際平和文化都市広島にふさわしい新しいサッカースタジアムを早期に実現したいということを私は強く思うわけです。

それには困難な課題があります。先ほど建設費が100億を超えるという話もありますし、天然芝の養生等維持管理にも相当な額がかかります。これはマツダスタジアムの建設費の大部分をカープ球団が償還できるということと違って、年間20試合強のサンフレッチェ広島の収入では賄えません。どちらにしても、市民・県民、国あるいは経済界のご支援が非常に大切です。そういう意味で、このスタジアム建設に当たっては、サッカーファン、およびサンフレッチェ広島だけでなく、多くの広島市民・県民のご支援、ご理解が非常に大切であります。

その意味で、このスタジアムは多くの方が利用できる、周りを含めて多機能複合型の新しいタイプのサッカースタジアム、新しい都市創造の規模を持ったスタジアムを造らなければならないと思います。

そして、地域の発展と広島の広域的な吸引力がさらに高まることを期待して、できれば市民、県民の理解が得られると思うわけです。そして、それはサッカースポーツ、あるいはサンフレッチェ広島においても幅広い女性層やあるいは広域のファン層が増えて、経営およびその発展に大いに資することになると思います。

よって多機能複合型の魅力的なサッカースタジアムを建設できる場所を基本とすべきだと思うわけです。

まずそこで各論で見ますと、旧広島市民球場跡地というのはご承知の通り、世界遺産の広島原爆ドームの背景地でありまして、世界遺産の、大切な世界の遺産として大切な場所であります。世界の世論にも耳を傾けなければいけないぐらいの場所でもあります。

また、市民の思いの強い土地であります。そういう意味で、広島カープが出たあとにサッカースタジアムを造るということが、すぐ市民に受け入れられるかということが疑問であります。また、他の活用策との比較になりますので、よって検討にさらに時間がかかって、実現が遠のき、この機運を逸する可能性があります。旧広島市民球場跡地の活用自体にも停滞が起これると思います。

また、次にサッカースタジアムはサンフレッチェ広島が主体として使用する競技場ではありますが、サンフレッチェ広島のためだけに建設するのではなくて、国際平和文化都市広島市として国際試合の誘致

もできるということも大切だろうと思います。その意味で、前にありましたワールドカップの時に屋根がないので残念だったなという話がありました。また、そういう意味で、サイズも拡張性もないと、大きな大会がくるができませんと、何年か後にこんな機会がある中で市民が残念がるということがない拡張性のある場所に欲しいわけですが、それがここでは許されません。

実際、今の zoom-zoom 球場を見てみますと、前の時の面積が建設面積で 6400 平米。今は 2 万 3000 平米。約 3.5 倍。延べ床面積で 1 万 2000 平米が 3 万 9000 平米。約 3.5 倍くらいの新しい市民球場ができております。あの zoom-zoom 球場ができたのは、そういう意味で新しいものを造る場合、やはり、大きなスペースで、大きなサイズで作るべきだと思いますが、そういう意味で、旧広島市民球場跡地はどうしてもその制限が強くあります。狭い場所、高さの制限、拡張用地が少ない、こういうものの制限がある。多機能複合化の余地がきわめて小さい。こうして何より議論が多い場所になります。そのため、ここで実質でそこへ提言しても、実現が遠のきます。早期実現が難しいと私は思います。

それに、かつ試合数が少ないのに、常に賑わいが創造できるわけではありません。年間の 12 分の 1 カ月しかできない箱を造ります。そういう意味で、都心の一等地の使い方としてはもったいないと思います。そういうことを思って旧広島市民球場跡地では、大いなる課題があります。

中央公園自由広場・芝生広場等ですが、先般、旧広島市民球場跡地で菓子博がありました。その時のマイクでもスピーカーでも、あちらとこちらにスピーカーが置けないような配慮がされるくらい、あちらの住居の地区には騒音が非常に気になります。そういう意味で、あそこの住居がたくさんある中のこの施設は、中央公園自由広場・芝生広場等はほぼ不可能じゃないかと思えます。前のカープ球場の時も、その議論があったと聞いております。それであそこが除外されました。実質、ここへ指定されたとしても、その後に実現ができにくいと思えます。その面で、宇品地区においては敷地が広く、土地に対する制限がありません。多機能複合化の施設の整備の検討の余地もあります。夢のあるスタジアムの構想が描きやすいです。また、近隣に広島のメッセコンベンション施設予定地もあります。両施設を統合するという相乗効果が期待できます。また、駐車場の用地や道路及び海路のアクセスがあつて、サッカーファンを、四国を含めて東西南北に広げて、サンフレッチェ広島の発展につなげることが大いに可能性があると思えます。

そして、実質アクセスの点ですが、私は若い者にいろいろ聞きましたが、「ええ？宇品がアクセスが悪いの。来たことがない人が言うんじゃないの。よっぽど中心部に行くより便利だよ」と、彼らは言います。車のことです。そういう意味で、皆さん、アクセス、アクセスとおっしゃいますが、宇品地区のアクセスはそんな悪いことではありません。広島空港へは 40 分で行けますし、広島駅からは 20 分で来れます。そういうような面でも、まだまだ、そのアクセス面の懸念されていることも解消できると思えます。また、花火大会の件では 40 万人ですが、これは 3 万人ぐらいの話でございます。そういう面で、そのあとの観客の消化もみやすいと思えます。

そういうようなことで、私は候補地を 1 カ所に絞って、要は広島みなと公園に絞って、提言することがいいと私は確信します。そうしないと早期実現が図れない。早期実現がしたい、私は。個人的な思いですが、強く思います。そこから、その場所を決めて、そのあとに夢のある構想を描いていただければ、市民・県民のご理解が得られて、早期の実現が図れるということだと思います。

ここで、この旧広島市民球場跡地を選んで、それから構想を練ったとしても、そのあとにたくさんの旧広島市民球場跡地の長年の議論もあります。またそれに対して議論が起こります。そういう面で、サッカースタジアムの実現というものは、なかなかやさしいことではありません。私は、早期実現を望みます。

ありがとうございます。私も、会長でもありますけれど、委員として、意見を述べないといけないと思います。まず、同じような立場でということを考えて、発言をさせていただきます。全体を取りまとめる会長としての意見ではないです。

今回、会長という形で、サッカースタジアムのことの議論を進めてきましたけれども、非常に広島に対して、大きな影響を及ぼす事柄です。それを議論する中で、議論の対象がまずはスタジアムをどうするかということと、限られた候補地の中でどれにするかということに焦点が当たり過ぎたかなということがあります。というのは、将来、これから先のことを考えた時に、広島という地域をどういうふうにしていくのか、そういった大きな視点の中で、サッカースタジアムを造って、ここにサッカーという国際的なスポーツを中心とした新しいものを生み出すということをしていこうという時に、何ができるかといことはやはり、実はもっと議論しなければいけなかったと思います。

跡地があって、候補地があってそれをどうするかということにどうしても議論がシフトした分、本題になる部分がなかなか議論できなかったというふうに思っています。その部分が、委員としては残念だったなと思うところです。それとやはり他のところですね、他での、例えば今、広島みなと公園にしても、旧広島市民球場跡地にしても、中央公園自由広場・芝生広場等にしても、将来的ないろんな議論を行っています。そういった大きな流れの中でのまちづくりの方向では、こちら、サッカースタジアムを造ることは外れではないですけれども、やはり、それらの地域ではどう使うのかということも併せて議論をする中で、選択肢としてのサッカーを考える。それは、ここでの協議と、別のところの協議が、どこかで意見交換する必要があるのではないだろうかと思います。

で、そういった中で、これまでの議論の中でどこにするかというのは、難しい部分がそれぞれにあるなという思いです。旧広島市民球場跡地に関して、やはり非常に広島を象徴するところです。そこに平和ということ 키워ドにスポーツということでスタジアムができるというのは、すばらしいことになるなという思いがある一方で、やはり、サッカーとの距離が少しある方にとって、あるいは、あの場所に対しての思いがある方にとってサッカースタジアムを造るということで、主としてそちらの利用に限定されてしまうということになかなか決断ができないというところがありました。

それから先ほど、各委員が言われた中に、旧広島市民球場跡地のいいことがかなりありましたけれど、実は発揮できる要素は、隣接する中央公園自由広場・芝生広場等でもできることだと思っています。少し、今の原爆ドームからは一歩入るかもしれませんが、例えばスポーツという形であるエリアを見た時には、他の体育館とかと隣接するところに造るわけですから、立体的なスポーツのエリアという形でも盛り立てることはできるだろうし、それから元々の街中への人々ににじみ出し、ということ考えた時も、十分徒歩で行ける。というのも、中心部からすぐ県庁の横に広島市民病院がありますが、そこへの移動というのは特に不利な関係ではないわけですね。あるいは、横にひろしま美術館がありますけれども、そこから少し足を延ばせば行ける場所にスタジアムができるというのは、その部分とどっちでも大きな差は生まれなないなということです。旧広島市民球場跡地で実現できることのかなりのところは、北側のところでできるかなという思いがありましたが、そこには住居が隣接しているという部分の大きなネックが見えてきたわけです。

今の段階では、そこにすぐ造るのも難しいし、困難な状況が生まれるということですね、そのあたりを考えると、どこでできるかという現実的な線で行くと、広島みなと公園のところ制約が少ないかなという感じを持ちました。拡張性がありますしアクセスの問題もありますが、早期に、計画の早い時期に造る。これは実は、ガンバ大阪が吹田に造るスタジアムでは、2020年のオリンピックで、そこでサッカーの競技をするような動きもあります。そういった流れを見ていきますと、非常に早い段階で実現可能であると場所かなと。ただ、それもこれまでの議論の中で出てきた情報だし、いろんな不確定なところがあります。というのは、旧広島市民球場跡地で詳細に設計をした時にどこまで実現できるかは見え

ていませんし、広島みなと公園に造った時の複合開発の不確定要素はあります。そういった中では、早期に造るという面では一番制約が少ないという考え方でここのかなという思いが考え方にあります。

一方では、強くそこまでの思いはないというところもあります。今までの情報だけで判断しづらいところがあるのも確かです。今、ざっとご意見をいただきましたが、大きく言うと3つに分かれる。旧広島市民球場跡地が優れている方、広島みなと公園が優れている方、もう一つは、今の段階では決めることはできないのではないかという意見がありました。この3つの意見があった時に、どう最終的な結論を作るかということです。どこかの場所を決めるということが求められていましたので、決めるべきだと思うのですが、その一方で、今の段階では判断しかねるという意見も多くの方からありました。

この点についてご理解いただきたいと思うのですが、この協議会でこれまで進めてきた議論で、やはりひとつ、あるいはそれぞれの場所の可能性についてしっかり示すのか、現段階ではそれぞれの場所の状況を見た上で可能性がいずれにもあるという状況で置いておくのかということに関していかがでしょうか。

高木委員

前日も申しあげましたけれど、森保一監督がおっしゃっていたように、やっぱり将来、市民のものなのだとすることで、複合施設というのはいつも考えてみるべきだと思います。だから、そのスペースの望みがないところは、ちょっと。私が言うことで決まってしまうようなことだと、ちょっと困るのですけれど。でも、今までの流れから言いますと、やっぱり旧広島市民球場跡地は無理。先ほど山根委員がおっしゃいましたように、やはり今から将来に向けて新しいものを作っていくのですから、その可能性を引き上げることと、今から市民の希望につながるものでないと。そういうことを思います。

加藤（義）委員

高木さんもおっしゃったように、今の状態で優位さをつけるのは、市民に説明ができません。やはり、市民がこれなら納得していける、あるいは、それぞれの地域の方が受け入れてくれるということになると、やっぱり、デザインなり詰めがいると思うのです。何にも描かれてないのに、今から行政がやっていくと思うんです。という、意見を十分聞きましょうという。

永田委員

今おっしゃったように、我々には説明責任があると思うんですね。その際に、どういったもので比較検討して、結論というか、どういったものを導き出したかを明確にすべきだと思います。その際に、曖昧な数値、曖昧な算式というものが出てると、これはまず訂正しなければならない。そういった部分と、我々委員全員に取りまとめに関して、いろんな意見を述べましたが、ほぼ訂正されてない箇所もありますし、今後直さないといけない部分もあって、単純にこの取りまとめが表に出た時に、これはどうなんだという話になるためには、必ず脚注とかいろんなことをするんですね。

そういったものを出すべきであって、それからみんなに説明責任として、こういう意見がある。そのためにどうすべきだということは、やはり市民に問うべきだと思いますし、説明責任として、我々の気持ちとしては、そこは市民・県民、そして建設コスト、コスト&ベネフィットですね、市民に対してこれだけのベネフィットがある、その代わりこれだけのコストが必要である。だから税金が必要ですよというのを明確にすべきであって、特に今回メッセコンベンションなんかが出ているわけですが、このメッセコンベンションの収益が想定されています。ただし、それに対しての単純な収益だけでそのコストが出てないんですね。

ご存知のように収益は出ている。コストは、どういったものから出したのか。コストはどれくらいか

かったのかというのが、ここで出ていなくて、非常にアンバランスになっていますので、その整合性をしっかり取って、まずこの形を完璧にするべきだと思いますね。それでなければ、これは非常に一つだけが違ったものをプラスして、こっちだけが違ったものをプラスしてというふうに、比較対象ができるようなものになっていないと思いますので、過去の委員の発言、前回の我々の取りまとめに対する気持ちというものを的確にこの中に落とし込むべきだと思います。

山根副会長

今の会長の質問と違うと思いますが。

永田委員

ですから、これがまず重要なものであって、これが説明責任であって、それでどうするかというのは市民に問うべきだと思います。

三浦会長

現時点では、いろいろ、幅があるもので議論をしたので、その点を考えると、元々ご自身としてはいいという意見もありますが、協議会全体としてはまだ、それぞれご意見が違いますよね。その段階ではやはり、今の状況のままで3候補地が併記される。ここから先もう一步詳細な、一段深めて議論を進めて選定すべきだということ。細かいところで、完璧とか言われると、完璧なものはなかなか難しいと思うので、今の段階ではちょっと判断するのは尚早だということを受け止めたらと思います。

永田委員

数値の根拠だけを明確にすればいいだけであって、例えばですが、広島みなと公園と言えば海の玄関口というのがありますけれど、検討中のコンベンションはどうか。

山根副会長

それはまた数値の話じゃない。わからない話をしなさんな。

永田委員

分からない話じゃないと思います。

山根副会長

どれが数値か、いっぱい数値がある。根拠出していたら、できやせんじゃないですか。

永田委員

それを出さないと説明責任にはならない。我々がこれを説明責任として、市民に、ある意味この1年、19回もの間、血税を使って我々はこの検討協議会をしてきたわけであって、それに対して、市民に対して明確に説明することが必要だと思います。そのためには、根拠ある数値、要するにどの数値で、どういふことでやった、いつの時点での、いつの算式の、いつのこういつた時点の数値であるということ。それから、いろんな検討とかいろんな形がありますけども、本気で検討されているかどうか、本当にやられているかというものを、要するに仮定ではなくて、今現在あるもの自体でしっかりと検討して、提出すべき義務があると思いますので、その辺をしっかりと我々として、広島県民・市民に対して説明責任を出すよう提言したいと思います。

塚井委員

永田先生からそういったお考えをいただいたんですが、私はできれば一つを書いた方がいいと思います。理由は、これは計画に携わる者の立場でという意見になりますけれども、副会長もおっしゃったように、すべての数字に対して根拠を付することは、難しい。これは計画はそもそも将来ですから、収益にしたって、コストにしたって、これからどういう交渉をなされていくのか、資金計画を立てていくのかということに依存します。ですから、誤差があることは承知の上です。その上で、もちろん説明責任はつけなくてはいけないので、永田先生が気にされる部分があるようでしたら、それはしっかりと説明は付けていく。どこがどうという、ここはこう、また少し伺いながらと思いますが。

その一方で、迅速性の話が出ています。これは、早く決めるべきだろうと思います。我々として、この委員会に付託されたのは、あなたたちはどこが一番いいと思いますかという質問でありましたので、私たちは「ここがいいと思います」という回答を返す。それが、若干、我々はそれぞれ見解が違うところはあります。ですから、まとめの仕方として、じゃあ結論を書かない方がいいのか、それとも1番、2番、3番とつければいいのかというのは、まだ少し調整の余地があると思いますけれども。それにしても、このまま併記のまままで終わらせてしまうのはよろしくない。総合的に考えるとどうだったのかということまで踏み込んでコメントしておくのが、このレポートの責任だろうと。

事後にいろいろな説明をすることにおおそらくなると思います。根拠については、場合によっては、いろいろな場面で我々自身の発言もいるかもしれませんが、それは個人の見解であって、それぞれ考えるところがあるのは、これは当然の話でありますので、ぜひ書いていただきたいと思います。

川平委員

私はですね、昨年の6月から今日で19回が済みました。一年半、皆忙しい中を月に1回集まってきたわけで、その結果、いや結論が出ませんというのはどうかと。少なくとも優先順位は振って、我々の総意として出すべきだと思います。

山根副会長

私、繰り返しますが、本当にこのサッカースタジアムができて欲しいと思います。早くこの広島にサッカー専用スタジアムができると、今のエディオンスタジアムのままでは、やはりいろいろと、今までいろんな課題が出あります。それと古くもなっております。使い勝手も悪いです。喜びも大きくないです。喜びは大きい方がいいです。という意味で、どちらにしる、早く実現したい。それがいいと思います。

その意味では、私は繰り返しますが、広島みなと公園に絞って提案していく方が、本当に実現が早いと思います。いろいろ、先ほどから広島みなと公園自身の法律的、あるいは課題がありますが、これは解決は容易です。私がちょっと聞いた範囲では、解決は割と容易です。そういう意味では、ここに絞って、夢のある構想ができて、市民の理解が得れるようにと進めていくことが、このサッカースタジアムの実現を図るということになろうと私は強く思っております。

野村委員

早期実現、ぜひお願いしたいんですが、評価するのに、やはり、公平性がないといかんと思うんですね。広島みなと公園にいろいろ問題点があるが、すぐ解決できるとおっしゃっているんですが、この旧広島市民球場跡地には掘り込んだら54億円かかるよというような課題が出てきている。じゃあ、広島みなと公園は代替地がいりますよということなのに、先ほど小谷野委員からお話がありましたが、60億か

ら100億。それはない、それをせずにおいて評価することはできません。それなら、今日はまだできないですよ。まだやったらどうですか。何をやっていったんか、19回もやって、ただ結論出んわけですから。ぜひ、続けてやった方がいいんじゃないかと思います。

鵜野委員

19回の議論というのは、今ある情報で議論しているわけでありまして、細かい詳細のスタディーについてはまだ実際にはまだやってないわけですね。私はどっちかという課題よりも、こうあるべきとかこうありたいというのを基準にしてきているんですけども、基本的にまだまだ具体的にスタディーして行って、課題は当然出てくるだろうと思います。そういった中で、まだそこまではっきりと、じゃあ、「ここ」というのは言い切れないというのが現状だろうと思います。どっちかを落としてしまうというには早いんじゃないかというのが私の今の意見ですが、私は自分の意見としては、2つの、旧広島市民球場跡地と広島みなと公園の2つですね。その中での優先順位をつけておりますが、片方を落としてしまうには時期早尚だろうというのが私の意見です。

加藤（義）委員

早くできるのに越したことはないんですが、ただし、早く作るために、ある意味で、緻密な検討をないがしろにして、議論を進めようというのは、どうかと思いますね、私は。それで、市民のレベルからいうと、旧広島市民球場跡地という声が大きいですね。市民のレベルから言うと、制約だなんだ、そんなことは考えないで、旧広島市民球場跡地という声が大きいです。ですけれども、今こういう検討をしてきて、いろんないいところ悪いところ、やさしいところ、やりやすいところ、なおかつ何年間か先にスタジアムを造ろうという計画さえ決まれば、ファンも市民も一応納得すると思うんです。今は、いつごろできるとか、何もないんですね。そういう議論が、今回ここまで詰めて、ここまで整理ができて、ここから先をまたついで議論が始まるなら、また市民もファンも納得するんじゃないですか。そう思います。

永田委員

すみません、ちょっとだけ付け加えさせてください。今回、建設コスト、コスト&ベネフィットというのは、やはり明確にすべきだろうと思います。これだけのコストがかかる、これだけのメリットがあるということは、やはり説明責任の中で中枢になるものだと思っています。その中で、例えば広島みなと公園、旧広島市民球場跡地、この2つに絞るならば、広島みなと公園では代替地の取得にどのくらいのお金がかかるか、これは明確にすべきだと思います。現時点ではこれくらいかかるだろうということは、ある程度算定するべきだと思います。さらに償還ですね。補助金の返還分。今現在であれば、これだけ返還しなければいけない。こういったものはまず出すべきだろう。

旧広島市民球場跡地なら掘削という案がある。54億円かかる。これはいつの数字であって、いつどこの会社が算定したのか、というものを出すべきだと思います。

また、小谷野委員から出された2万7000人というのであれば、掘削をしなくてもできますよ。こういった案、アイデアもありますよということが出てきて初めて、議論として成り立つんじゃないかと思っています。

メッセコンベンションも、全国でいろんなところできています。作っておられますが、全国で平均どれくらいの稼働率があって、どれくらいの収益が上がっていて、どれくらいの規模でコストで造られているのかということ、まず明確にしなければいけない。そうしなければ複合施設と言っても、この中で考えているのはメッセコンベンション、MICE機能を持ったメッセコンベンションという形で広島

みなと公園を考えているわけで、その MICE 自体が、プラスアルファの経済効果として出るのであれば、それがどのくらいのコストがかかるのかというのをいさなければ経済的な観点にはならないです。

そういった中で、ひとつひとつ片落ちな部分があると思うので、それを平等に公平に出してあげて、初めてそこから議論ができるんじゃないかなと。現時点の議論というのは非常に曖昧であり、例えばですが、経済効果であれば、直接効果と間接効果、波及効果とありますが、今回の経済効果というのは建設費、建設に関わる経済効果であって、これは我々が思う経済波及として、我々のところにお金が回ってくるという経済効果ではないのですね。であれば、単純に中央公園自由広場・芝生広場等、もしくは旧広島市民球場跡地、もしくは広島みなと公園であれば、例えば広島みなと公園であれば MICE 機能ができてプラスアルファなものが出ますよね。これ当然です。その代わりその分で比較する際に、コストが出てきます。

プラス、旧広島市民球場跡地、中央公園自由広場・芝生広場等であれば、本通り、紙屋町、流川といったところの飲食の、紙屋町、八丁堀地域の商業施設への波及、それがプラスアルファになるはずのものですね。当然この理由というのは、あくまでも私の妄想でも何でもなく、マツダスタジアムがあそこに 2009 年にできて以降、広島駅界隈の、その辺は非常に経済効果が上がっています。福屋、駅ビル、そういった地域が確実に売上高が上がっていますので、その辺がやはり、すべてを網羅すべきじゃなくて、その辺を公平に見せてあげるのが必要なのかなと思います。

三浦会長

ちょっとですね、いろいろあると思います。ちょっと今の別の観点からですが、3つの場所のうちで、あまり御意見がなかった中央公園自由広場・芝生広場等、ここはやはりみなさんは難しいというお考えでよろしいですか。

そういった状況で、ひとつは、今の段階では、2つの場所について、そこに対して1箇所にするべきだという意見と、早いという意見があります。なかなかここは難しいところです。私自分の立場から考えて、ぜひとも、1箇所に決めたいんですが、おそらく今日決めるとなると、まだまだ時間かかるなという思いがあります。いろいろまだそれぞれの場所に出ている情報の確実性とか、そういったことがあるというふうに思いました。難しい判断をしないといけないんですけども。データ開示は、前の議論の中で、それぞれ意見を見ていくと、うまく3つを残してきましたけれども、中央公園自由広場・芝生広場等については、そういったこれまでの評価からすると、残り2つから比べると、広島にふさわしいスタジアムを造るということに関しては候補から外れるだろうということは、ひとつ結論としてはみえてきます。

ただ、その上で、それぞれの場所についてはということになった時に、十分いろんな意見の中でどうするか。私は元々今回の最終取りまとめ、例えば世界規模の大会を開くというようなことの関係性、やはり今回いろんなポジションいただきながら、2つのスタジアムに対して見方があって、広島という地域にスタジアムを造るという視点と、地元で育ってきたプロサッカーチームとしてのスタジアムを造るという、これの融合がうまくできてないかなという気がします。それぞれの立場もあるので、それぞれの視点から見ると、こういう考え方がある、あるいは別の考え方もあるという、そこが整理できてないなと思うんですね。そういったところが規模ですね。私の考え方としては、大きいほうがいいと思ってはいるんですけども、総意を得るのは難しいと思っております。そういったことを考えると、一つは、現段階ではそれぞれの場所ですることを出す、詳しく書いて、今後の議論に委ねるというのと、そこをもう少し私たち自身でまとめるという2つがあるんですね。一旦はここで協議会を閉じて、その状態で次の検討をされる。それは行政等の組織になるか、あるいは、また同じようなこういうのが組まれるかは分かりません。そこに委ねるか、あるいは、先ほどから多くの委員からありましたように、早期実

現を考えると、ある程度、私たち委員のメンバーで結論を出した方がいいかなという思いもあります。ただ、時間はそんなにはないと思います。この点についてはご意見がありますでしょうか。本当は、今回でスパッと終わりたいと思って今日は望んで来たのですが。

山根副会長

ある程度、これ、並行の意見だと思いますね。本来、こういう協議会では多数決を取ったら思いますが。なんかそんな形でもどういうまとめ方をするのか、それならば一本にするのかというようなことで、やはり、皆さん、それぞれの意見があるものは協議会として、ひとつの意見としては、やはり、民主主義のルールで、多数決でやるべきじゃないかなと思いますね。

野村委員

こういうものを多数決でやるべきじゃないと私は思います。それから、条件的にはもうちょっとそろえた方がいいと思います。別に今日やめなくてもいいんじゃないかと思うんですよ。市がもともと調査費としてお金を出すのをけちった訳ですからね。それを追加を出してもらって、もうちょっとやれば、計算ももうちょっと詳しいものを出してくると思うんですよ。わずかな金でやるんじゃ、かわいそうですよ。それはお金を会長が市に言って出してもらって、もうちょっといいものを出しましょうや。そして検討した方が。やはり将来に禍根を残さないことです。

塚井委員

自分の出した場所に戻っているというよりもやはり難しいのかなというのがございます。波及効果は確かに出した方がいいんですけども、それは算出法とかがあるでしょう。しかしながら、計量経済学ということになりますけれども、小地域の開発がどういう付加を周りに及ぼすのかを出すのはそう簡単な計算ではありません。かなり時間がかかります。これが一つ。

それから、加藤委員からも、私からも、実は同じことを指摘しているわけですがけれども、旧広島市民球場跡地にほかに何かないのかということも詰めることは不可能です。広島顔としてふさわしいものは何かということも、もちろんサッカーがその有力な選択肢だということは承知しています。その可能性は十分にあると思っておりますけれども、例えばその他に何が言えるのかみたいなことを考えようとする、どれだけ時間があっても、おそらく結論は出ない。ということを見ると、もちろん、ご指摘があったように、代替地のところの問題というのは広島みなと公園の方にはあるでしょう。しかしながら、これもどこにするのか、いくらかかるのかということの精査を始めると、我々が議論して結論が出るということじゃなくて、また同じくらい別の調整が必要になってきて、これも多分範疇を超えるだろう。

一方で、すでにこの協議会が当初予定されていた会期を超えているということも考えないといけないと思います。建設の迅速性というのがありますが、回答の迅速性というのがあると思いますので、やっぱりまとめるのはまとめるべきだろう。その上で、併記になるなら併記でも構いませんけれども、意見がそれぞれどういうポイントが最後に我々指摘されたのか、それをしっかりまとめていただくということであって、一つにするのが理想なんですけれども、そうでないとしても、やっぱり協議会をここで一旦形を収めて、会長がおっしゃるように、精査の部分については、おそらく、2つのポイントですか、波及効果と代替地の問題、それぞれには課題があることを指摘して、何らかの形でまとめていただきたいと思います。

鶴野委員

今までの議論の状況からして、今日1箇所を決めるというのは非常に困難だろうし、いろいろな人を含めて、どっちを立てても、どっちかか納得しないという状況だと思います。我々がベースとしている議論とか、情報というのは、そこまで確実なものじゃないので。それとともに、今いる、我々を含めてメンバーからしても議論の限界というのがあるわけですね。ですから、やはりこの検討協議会としては、今の状況では、2つの候補地に絞って、多少優劣をつけるのはいいと思いますけれども、一応そういう表記にしておいて、準備委員会のような形で、もっと具体的に議論を進めていくメンバーの中で本当に課題と実際にこうであるべきというのを議論して、決めていくのが一番バランスがいいんじゃないかと思います。ちょっとここで決めちゃうと、時期尚早で、説明がなかなか難しいんじゃないかと思っています。

小谷野委員

結局、時間の制約があるので、今回も本来だったら、最終とりまとめの文言について、きちんと精査しなければいけないところもできていない現状です。私も時間がないので言いませんでしたけれども、資金調達のところの交付金の扱いとか、私、火曜日にJリーグとJFLの構想委員会に出てきて聞いたのですが、2020年までtotoももう出ませんとか、いろんな話があるのですが、そういうものを飲み込んで、とりあえずはこの協議会は1回区切りをつけるとすると、限られた情報の中でどこがいいとか優先順位をつけることは難しいと思います。誠意をもって考えれば考えるほど、3箇所から2箇所にしましょうか。2箇所について、候補予定を今後の進め方について、まとめをきちんとすると。それが限界だと思いますね。私はまとめを作ること自体もちょっと大変じゃないかなと思っているんですが、ギリギリの妥協点として、2箇所についての両論の併記。これが妥協点に近いかなと思います。

加藤（義）委員

私たち、この協議会に課せられた課題は、確かに、やっぱり、それぞれのスタジアム整備に関わる諸課題について議論をして、解決策を取りまとめ、行政や経済界へ提言をするというのが目的です。その中で解決策のあるべき姿というのは、いろいろ議論を押し切って、整理をしていく。私はそのところまでの整理をした段階で、今日のレポートができた段階で、決めてしまえばいいよ。それはそれで片付けて、その先にどうするかという問題が今のようにあるかどうかわかりませんが、非常に今決めておく根拠、経済性にしても、先ほどあったような付帯設備でもコストがいるわけですね。そういうのを無視して付帯設備ができるというのが出るのはおかしな話だし、それからデザインが何もできていないというのは、全く私たちにも納得できないところがある。その意味で、市民に説明できるような状態を今からどうして作っていくのかというのは、この提言のまとめの中にいっぱい書いてあるんですよ。この点を検討するみたいな、この点を中心に視点を選べとか書いてある。私は、それで充分でなくて、こここのところに気をつけるべきだと思うんです。それ以上に建設の具体的なデザインをしたり、資金調達を細かく検討するメンバーではないと、私は思います。やはりそれなりのメンバーじゃないと、すべての建築構造関係の検討とか、いろんな機能をどうするかとか、このメンバーではできないし、それは行政の管轄によって、うまくやるにはどうするのかを考えてもらうべきじゃないかと思います。

川平委員

この協議会は今回ではじめをつけるという中で、個人的に言えば、候補地を絞り込みたいという思いはありますが、それがどうしても得られないことならウエイトをつけた上で提出という形にしかならないかと。それもいけないとなれば、併記するしか仕方ないことで。ただ、個人的に言いますと、旧広島市民球場跡地と中央公園自由広場・芝生広場等のどっちがいいかといいますと、私は中央公園自

由広場・芝生広場等を取りますよ。ただ、拡張性の問題がどうしても引っ掛かりますから。私からはこれ以上申し上げませんけれど。

ここで広島みなと公園と旧広島市民球場跡地について、両論併記でお出しするんであれば致し方ないかなと思います。いずれにしても、この協議会を1年半やってきたわけですから、一定の考え方は示すべきだと思います。

三浦会長

はい。いろいろご意見をいただきました。1年半にわたって、私たちは議論をしてきて、現時点で到達したところへ入る。ここまでかなという気がします。すなわち、まずそれぞれの現時点の残った2カ所に関しては、広島にふさわしいスタジアムとして、非常にいい部分がそれぞれにあるんだと思います。その一方で、課題も残されている段階では、確実に一方であるという結論には至らず、それをするには、今後さらにベースの方についてより検討していただきたいと。その時には、今回示したような、いろいろな課題であるとか、そういったことに関してしっかり詰めていただきたいなということです。それから、そもそもここで1年半かけて議論してきましたけれども、将来に向かって広島にこんなスタジアムができてよかったと言われるものをぜひ生み出せるような、市民を巻き込んだ具体的な議論が、市民としての「ここだ」というふうに皆さんが自覚を持てるようなところに結論が至ればいいなど。そのあたりも、とりまとめの中で述べていって、バトンタッチをするということで、今回は、そういったまとめについては私の方で考えていきますので、それは見ていただいて、ご意見をいただいて、最終的にとりまとめとさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(特に意見なし)

会長としては、一つの場所に絞るということ、やはり、託されたと思って進めてまいりましたけれども、1年半もかけてそこまでいかなかったところは、私の進め方、あるいは、いろんな準備の仕方が不十分だったのだと思いますので、その点本当にお詫びしたいと思います。それから、各委員のいろんな思いを十分に議論できなかったところもあると思うんです。書面で意見をいただいたりもしましたけれども、その点についてもなかなかうまくいけなかったと思っています。その一方で、いろんな部分が見えてきたところもありますので、そのあたりをしっかりと最終とりまとめとして、広く市民の方にも経済界にも見せて本当に実現のためにこれから努めていただきたいという願いが強いです。

それでは、長時間にわたり、それから、1年半にわたり、ありがとうございました。以上で終わりたいと思います。